

株主通信

2019.4.1 - 2020.3.31



トップメッセージ

Top Message

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

▶ 当期の振り返り

当期の当社グループを取り巻く世界経済は、米中貿易紛争の長期化により中国経済の成長が鈍化するとともに、欧州をはじめ各国の輸出環境が悪化し、景気の減速が明らかになりつつありました。国内経済は、企業収益に陰りが見られるほか、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響が全国的な広がりを見せ始めました。

これらへの対応として、当社グループでは従業員の安全を最優先にテレワークなどを推進し、各国政府の要請に応じた形での対応を図っています。生産においては、中国エリアで一時的に稼働を停止したものの、春節以降、順次再開を進めました。一方、米州、欧州、アジアの一部の現地法人では稼働が停止した状況が継続しました。なお、当事業年度においては、COVID-19による業績への影響は限定的でした。

▶ 当期の配当について

当期の期末配当金は、1株当たり9円50銭とさせていただきます。すでに、2019年12月2日に実施済みの中間配当金1株当たり7円50銭と合わせまして、年間配当額は、1株当たり17円となります。



取締役社長 竹田 玄哉

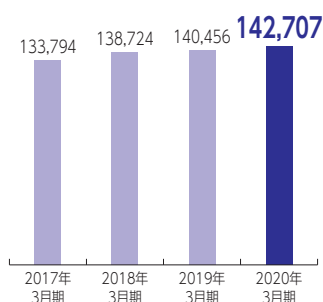
連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

Point

当期の売上高は1,427億7百万円(前期比1.6%増)、営業利益は54億52百万円(前期比163.8%増)となりました。中国や米国での新規量産品の立ち上がりが寄与したことに加えて、日本国内、欧州を中心に品質ロスや固定費削減に努めたことにより、全体で増収・増益となりました。経常利益についても、営業利益の増益により47億25百万円(前期比229.3%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、所有不動産売却に伴う特別利益もあり、21億77百万円(前期は85億25百万円の損失)となりました。

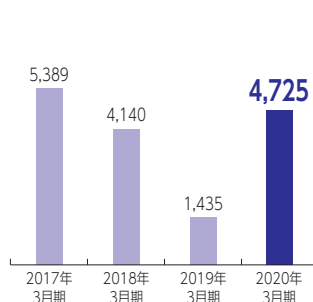
■ 売上高 (単位:百万円)



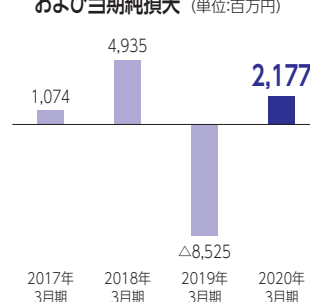
■ 営業利益 (単位:百万円)



■ 経常利益 (単位:百万円)

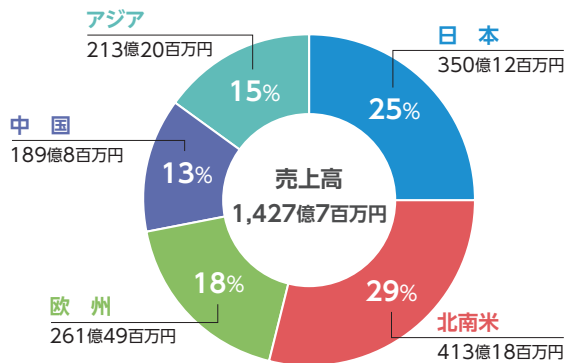


■ 親会社株主に帰属する当期純利益および当期純損失 (単位:百万円)



セグメント別の業績

Segment Information



日本 【前期比 1.4%減】

生産効率の向上、品質ロスや物流費の低減、固定費削減等を行い収益力強化に努めました。

北南米 【前期比 5.2%減】

メキシコ工場等で現地の景況悪化の影響を受けたほか、輸入コスト増加や為替変動等により原材料費が増加し、減収減益となりました。

欧州 【前期比 11.2%増】

新規品の立ち上がりにより売上増収となり、コスト面でも物流費や品質コストを抑制したことに加え、ドイツ子会社において不採算製品についての販売価格の見直しや人件費を中心に固定費削減を行った効果が徐々に現れており、損失額は減少しました。

中国 【前期比 23.1%増】

新規品の立ち上がり、固定費の抑制等が寄与して増収増益となりました。

アジア 【前期比 5.2%減】

インドにおいて環境規制の強化や金融情勢の影響を受けたほか、タイ、韓国においても景気減速の影響を受けました。

現状分析と当期の施策および中期目標

Management strategy

当社は、自社の現状について以下のように分析し、企業価値向上のため、短期・中期的に解決の施策を講じてまいります。

	過去の業績悪化要因	当期の施策	2024年に向けた目標
経営戦略	方針と分析不足の事業拡大、内燃機関乗用車事業への偏重	不採算事業からの撤退、生産拠点の統廃合	非乗用車・非内燃機関関連事業のシェア拡大、コアコンピタンスを活用した非乗用車事業への多角化
ガバナンス	ステークホルダーコミュニケーションの不足、取締役会の機能不全	社外取締役とIRの機能強化	理念と対話による合理的経営を通じた株価の向上
利益率	販売価格の低減、品質保証コストと異常費用の増大によるROS低下	異常費用・販管費の削減	サプライチェーン強化による付加価値安定化、製品機能向上と優位性確立による高収益化
財務安全性	P/L偏重の経営管理、C/F管理の不徹底による借入金の増大	FCFプラス化と連結キャッシュ管理スキームの構築による単体B/Sの健全化	資本回転率の向上、P/L経営からC/F志向・ROIC経営によるネットD/Eレシオの健全化
生産性	規模偏重の経営方針と社内教育の遅れによる付加価値生産性の低下	スクラップ低減とサプライチェーン強化による付加価値の増大	エンジニアリング主導の省人化・自動化・IoT推進、社内教育の強化による製造現場とオフィスの多能工化
イノベーション	極端な自前主義による革新の遅れ	CVC、パートナーシップの拡充、マーケティング部門と研究開発部門の連携強化	エネルギー・マネジメントとヒート・マネジメント産業におけるシェア拡大、地域に根づいたサービス事業の拡充
品質	『質より量』の経営方針による品質保証能力の低下	自工程完結とコンカレント・エンジニアリングによる工程内不良率低減	工法の革新による高品質ブランド戦略の確立
組織開発	年功序列の人事考課制度、散発的な社内教育、経営リテラシーの不足、硬直化した勤務体系によるタレントの偏在	能力主義・成果主義制度設計の完成、ダイバーシティに適合した柔軟な勤務体系の設計	経営能力を持つリーダーの継続的な輩出



ウェブサイトのご紹介

当社ウェブサイトでは、企業情報や財務情報をはじめとして、各サービス案内、実績紹介など、当社をよりご理解いただける内容を掲載しております。IR活動における各種資料掲載、最新ニュースなど、様々な情報をご提供しておりますので、ぜひご利用ください。



三 桜 工 業

<https://www.sanoh.com/ja/>



数字で見る三櫻工業

since
1939
MAY

創業

81年

22カ国
92拠点

連結従業員総数

8,839名

主要製品

40種類以上

主要顧客数

220社

グローバルネットワーク

Europe

United Kingdom
France
Hungary
Turkey
Russia
Germany

N/S America

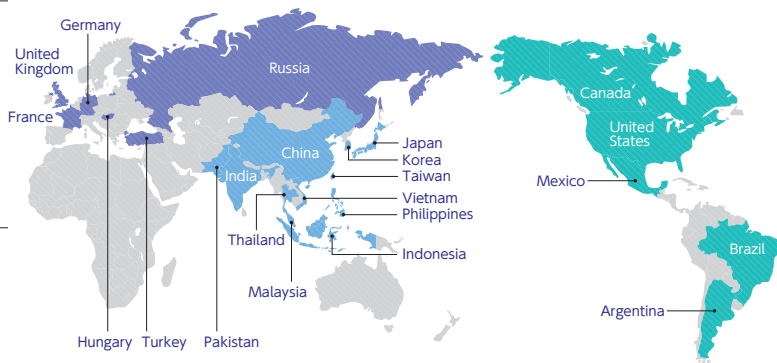
United States
Canada
Mexico
Brazil
Argentina

Asia

Japan
Thailand
Malaysia
Taiwan
India
Korea

Pakistan
Indonesia
Philippines
China
Vietnam

■…鉄造管 ■…樹脂造管 ■…ASSY ■…ブレーシング



こんなところで使われています

エアシャッターガイド



EGRパイプ



フューエルインジェクションレール(FIR)



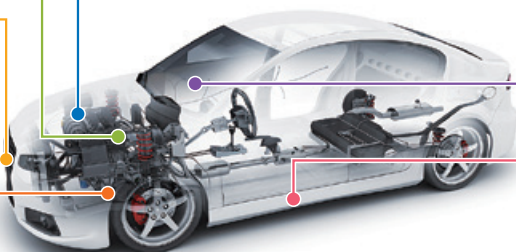
プリテンショナーパイプ



樹脂ウォーターパイプ



集合配管



TOPICS

チューブ生産累計が地球と月を10往復！

当社の主力製品であるチューブ生産累計が、1963年の生産開始より2019年3月末現在で822万kmに達しました。

822万kmは、地球と月を10往復(1往復約77万km)する距離に相当します。

これらのチューブは、主に自動車用配管製品として使用されており、ブレーキオイルや燃料等を運ぶ重要な役割を担っています。

当社はこれまで積み上げてきた技術と開発力を基に、今後も安心してご利用いただける良品質な製品を提供できるよう、コツコツと歩みを進めてまいります。



第112期定時株主総会決議ご通知

2020年6月22日開催の第112期定時株主総会において、下記のとおり報告および決議されました。

記

報告事項 1. 第112期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第112期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)計算書類の内容報告の件
本件は、上記1. および2. の内容を報告いたしました。

決議事項 第1号議案 取締役8名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、竹田陽三、竹田玄哉、田村 豊、佐々木宗俊、森地高文、浪江一公、金子素久の7氏が再選され重任し、新たに入山章栄氏が選任され就任いたしました。

第2号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、春名孝昭氏が再選され重任いたしました。

第3号議案 会計監査人選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、新たにPwC京都監査法人が選任され就任いたしました。

第4号議案 取締役に対する株式報酬等の額および内容決定の件

本件は、原案どおり承認可決され、取締役を対象とする新たな株式報酬制度の導入を決定いたしました。

以上

会社情報

Corporate Information

■会社の概況 (2020年3月31日現在)

商 号 三櫻工業株式会社
英 文 商 号 Sanoh Industrial Co., Ltd.
設 立 年 月 日 1939年3月24日
資 本 金 34億8,110万円
従 業 員 数 8,839名(連結ベース)
主 要 製 品 プレーキチューブ、フューエルチューブ、フューエルインジェクションレール、スチールチューブ製品および樹脂チューブ製品、クイックコネクター、シートベルト用バックル・ショルダーアジャスター、設備等

■役 員 (2020年6月22日現在)

取 締 役 会 長 竹 田 陽 三
取 締 役 社 長 竹 田 玄 哉
取 締 役 田 村 豊
取 締 役 佐々木 宗 俊
社 外 取 締 役 森 地 高 文
社 外 取 締 役 浪 江 一 公
社 外 取 締 役 金 子 素 久
社 外 取 締 役 入 山 章 栄
常 勤 監 査 役 大 塚 弘 美
社 外 監 査 役 春 名 孝 昭
社 外 監 査 役 清 水 知 彦

■株式の状況 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数 144,848,000株
発行済株式の総数 37,112,000株
株 主 数 12,537名

大株主

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
神 鋼 商 事 株 式 有 限 公 司	2,212	6.08
本 田 技 研 工 業 株 式 有 限 公 司	2,000	5.50
ス ズ キ 株 式 有 限 公 司	1,600	4.40
有限会社竹田コーポレーション	1,500	4.12
トヨタ自動車株式会社	1,497	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,419	3.90
株式会社常陽銀行	1,243	3.42
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,241	3.41
アルコニックス株式会社	780	2.14
MSCO CUSTOMER SECURITIES	755	2.08

(注) 持株比率は発行済株式の総数から自己株式(716,933株)を控除して計算しております。

株主メモ

Stock Information

事 業 年 度 4月1日～翌年3月31日
配 当 金 基 準 日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
定 時 株 主 総 会 6月に開催
単 元 株 式 数 100株
公 告 方 法 電子公告 <https://www.sanoh.com/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都内において発行する日本経済新聞に掲載する。
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL. 0120-782-031 (フリーダイヤル)

株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6584

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2media)についての詳細 <https://www.a2media.co.jp/>
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ
「e-株主リサーチ事務局」

MAIL: info@e-kabunushi.com



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

